

NPO活動に関する新たな基本指針の特徴

特徴１ 基本指針のテーマとして

「NPOを起点としたSDGs実践の推進」に焦点を当てる

- 多様なプレイヤーの共通言語となり得る「SDGs」で、NPOを起点に社会全体に公益活動を広げていくスキームを示す。

＜説明＞

- ・ 少子高齢化に伴う人口構造の変化、経済成長の停滞への懸念、格差の拡大、気候変動に伴う災害発生等により、社会全体で、持続可能な開発目標（SDGs =Sustainable Development Goals）への関心が高まっている。
- ・ しかし、SDGsの重要性は認識されていても、SDGs達成のための具体的な実践方法については、いまだ模索状態にある。
- ・ ところで、SDGsの17の目標と、NPO法で定める22の活動内容は、ほとんど重なっている。
- ・ これまで自発的に社会貢献活動を行ってきたNPOは、SDGsが目指す持続可能な社会づくりの先駆者として、社会的課題の解決のための実践方法を示すことができる存在である。
- ・ 多くのNPOが活発に活動することで、その積み重ねから社会的課題の解決やSDGs実践のための知見が得られる。
- ・ この知見がビジネス・民間セクター等に広がることで、NPOを起点として社会全体にSDGs実践が広がっていき、その結果として、豊かな地域づくりが実現する。

特徴２ 目指す姿に近づくために参考となる事項を、具体的に記載

- 第3章で、NPO活動の活性化の参考となる事項を具体的に示す。

＜説明＞

- ・ NPO法の趣旨を尊重し、NPO法人の自由、自発性、自主性を損なわないように留意しながら、NPO活動の活性化の参考となる事項を具体的に示す。
- ・ NPOには、基本指針を参考としながら、それぞれのNPOの今後を考えていただき、それぞれのNPO自身で取るべき方策を決めていくことを期待する。

特徴３ 情報発信の強化に重点を置く

- 情報発信を、市民の理解、共感、支持を獲得する手段として位置づける。

＜説明＞

- ・ NPOに関する信頼できる情報の不足により、ボランティア活動に参加したい人や、社会貢献のために寄附したい人が、適切な団体を見つけられないことが課題。
- ・ ボランティア活動を始めたきっかけのトップは身近な人からの影響、次が職場や学校の体験プログラムであったというデータに基づき、闇雲な情報発信ではなく、ターゲットを明確にした戦略的な広報を行う。